

世界の化学繊維の生産（2010年）

1. 世界の繊維生産

表-1 世界の主要繊維の生産

(1000ト)

	全繊維	化学繊維			綿	羊毛	絹
			合繊	セルロース			
2004	61,689	34,149	31,694	2,456	26,204	1,220	115
2005	60,204	34,455	31,863	2,593	24,398	1,218	133
2006	65,820	37,805	35,103	2,703	26,635	1,234	145
2007	68,923	41,535	38,337	3,198	26,030	1,202	156
2008	64,415	39,667	36,852	2,816	23,400	1,200	148
2009	64,440	41,263	38,221	3,042	21,896	1,140	141
2010	72,575	46,215	42,977	3,238	25,100	1,118	142
10/09(%)	12.6	12.0	12.4	6.4	14.6	-1.9	0.6
構成比(%)	100.0	63.7	59.2	4.5	34.6	1.5	0.2

日本化学繊維協会推定

綿、羊毛は季節年度

2010年の世界の主要繊維生産（推定）は前年比13%増の7,258万トであった。化学繊維は12%増、綿は15%増といずれも増加した。

化学繊維は前年比12%増の4,622万ト。うち合繊（オレフィン繊維を除く）は12%増の4,298万ト、セルロース繊維（アセテートトウを除く）は6%増の324万トとなった。

化学繊維の生産は、2009年後半からの回復基調で2007年以来3年ぶりの2桁増となったが、繊維全体に占める化合繊のシェアは64%と前年比横ばいであった。

天然繊維は、綿が15%増と4年ぶりの増加となる見込み。インド、ブラジル、米国、ウズベキスタンの生産が増加する一方、中国、パキスタンは減少の見通し。羊毛は、最大生産国のオーストラリアの減少が続き、世界全体では2%減となる見込みである。

図-1 世界の主要繊維の生産

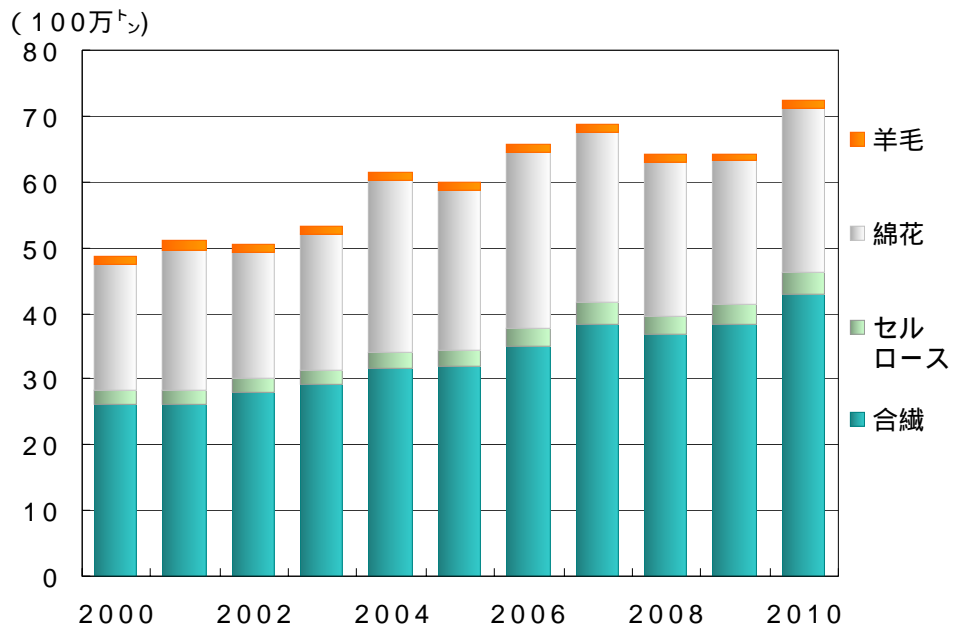
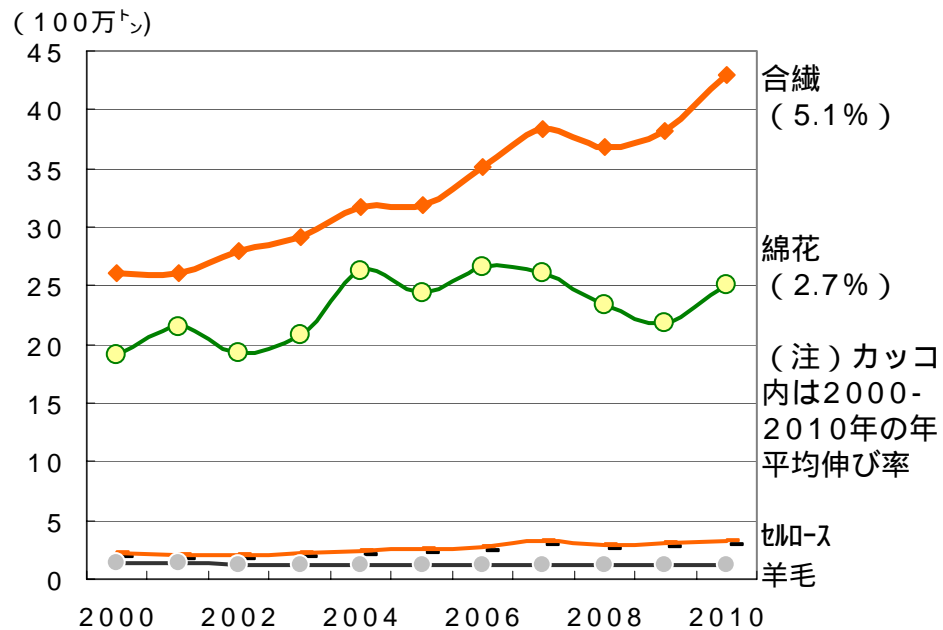


図-2 世界の主要繊維の生産推移



2. 世界の化学繊維生産

主要国・地域別に化学繊維生産をみると、中国は内需の好調から前年比15%増と大幅に増加した。その他の主要国・地域も軒並み増加した。一方で、インドは公式統計をもとにすると0.5%増とほぼ横ばいだが、関係筋によるとポリエステルが14%前後の増加という情報もあり、今後大幅な修正が入る可能性がある。

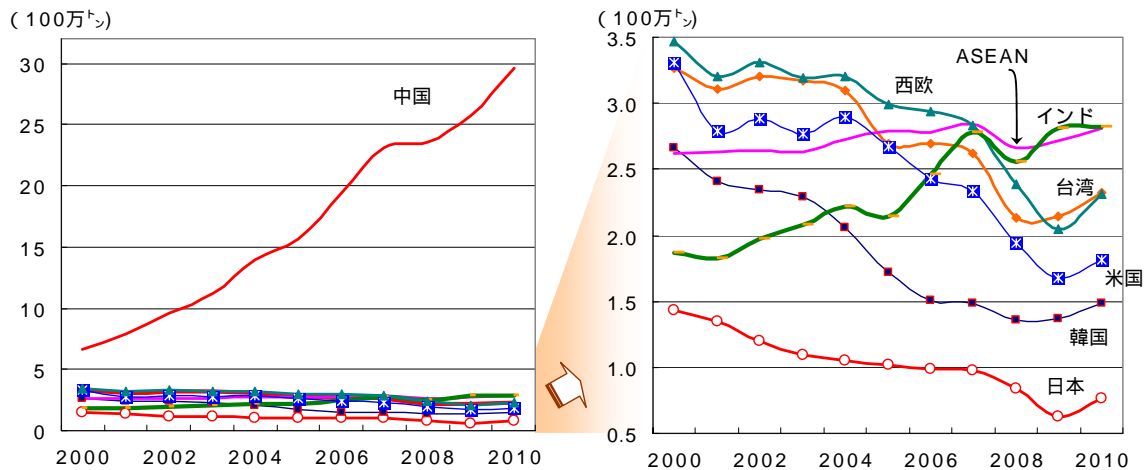
表-2 主要国・地域の化学繊維生産(2010年)

地域	ポリエステル		ナイロン S+F	アクリル S	合 織 計	セロース 計	化 織 計	構成比 (%)
	フィラメント	スチープル						
日 本	188	158	94	142	702	63	765	1.7
	15.6	8.4	25.8	14.5	23.3	8.5	21.9	
韓 国	748	527	135	50	1,479	5	1,485	3.2
	11.5	5.0	2.1	23.3	8.4	2.0	8.4	
台 湾	1,115	602	388	98	2,225	100	2,325	5.0
	9.4	5.6	25.4	-12.4	9.5	-5.2	8.7	
中 国	16,789	8,345	1,618	657	27,790	1,835	29,625	64.1
	18.6	13.0	12.3	-5.0	15.8	8.2	15.3	
ASEAN	1,301	904	90	93	2,388	419	2,807	6.1
	3.8	3.1	1.3	1.0	2.9	5.0	3.2	
インド	1,443	874	97	71	2,486	338	2,824	6.1
	0.2	1.3	12.0	-23.0	0.1	3.0	0.5	
米 国	470	588	628	0	1,805	15	1,819	3.9
	24.8	11.5	-1.5	0.0	8.7	-12.9	8.5	
西 欧	428	475	385	572	1,906	410	2,316	5.0
	26.6	27.7	5.5	4.1	14.1	8.5	13.1	
世界計	22,938	13,475	3,875	1,981	42,977	3,238	46,215	100.0
	15.5	10.5	8.4	0.6	12.4	6.4	12.0	

(注) 1.上段は生産量、下段は前年比(%) 2.推定を含む
3.オレフィン繊維、アセテートトウを含まない

中国は3,000万トンの大台にほぼ達した。中国の世界生産に占める割合は前年の63%から2010年は64%に拡大、一極集中が進行した。

図-3 世界の主要国・地域の化織生産



韓国はポリエステルFの回復に牽引されて8%増。台湾は9%増と2年連続の生産増となった。ASEANは総じて増加し、全体で3%増。米国は産業用・カーペット用ポリエステルFの好調により、化織全体で9%増と6年ぶりに増加した。西欧もポリエステルの大幅な回復により13%

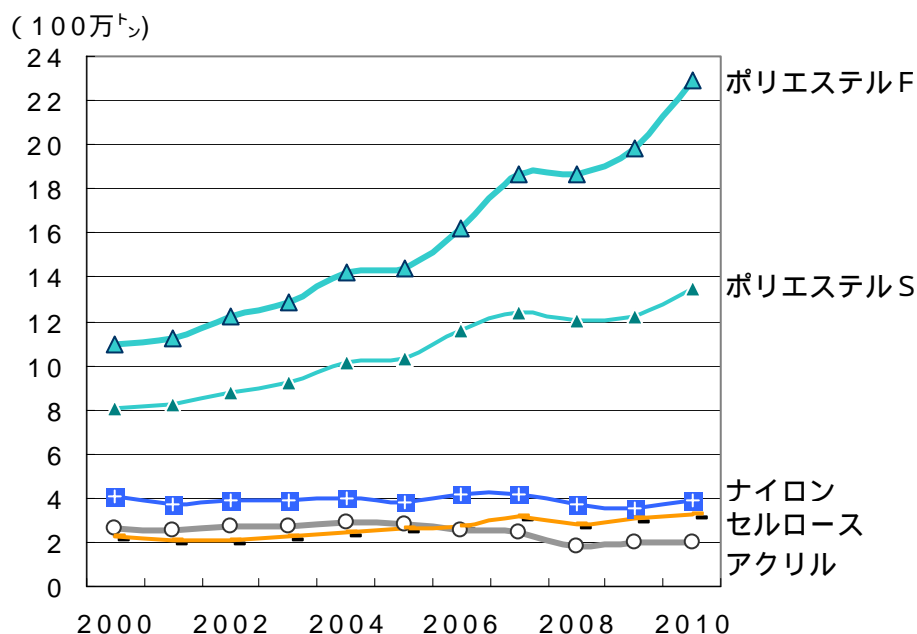
増と6年ぶりに前年を上回った。

主要品種別では、ポリエステルは、フィラメントが前年比16%増の2,294万ト、ステープルが11%増の1,348万トであった。フィラメント、ステープルをあわせたポリエステルの化繊生産に占める割合は79%と2009年からわずかに増加した。

ナイロンは8%増の388万トで、4年ぶりに増加。フィラメントは10%増であったが、ステープルは主要生産国の米国が前年比ほぼ半減したことから世界全体で17%減となった。

アクリルSは横ばいの198万ト。主要生産国の中国が5%減となったほか、台湾、インドも減少した。セルロース繊維は、フィラメント、ステープルのいずれも増加し、全体では6%増の324万トであった。

図-4 世界の主要化繊品種の生産推移

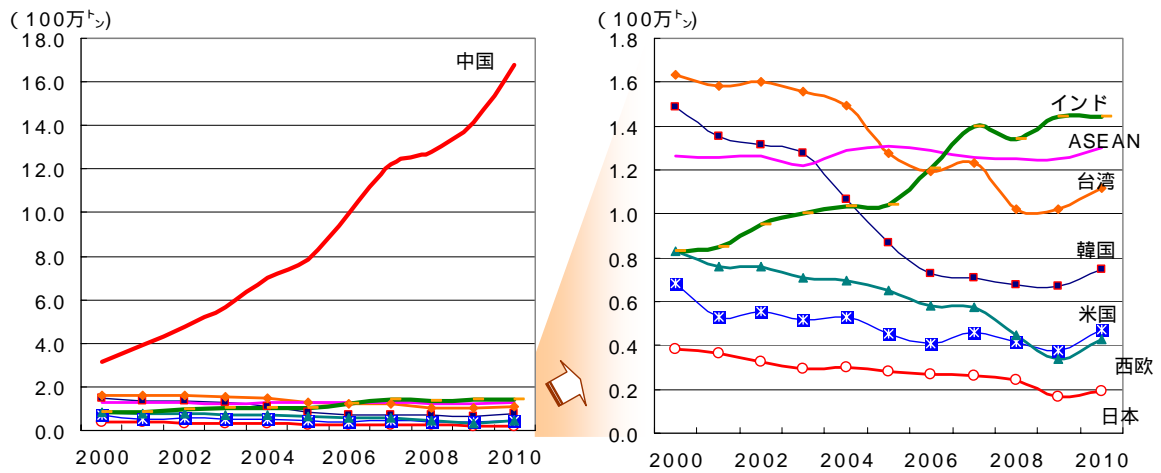


3. 世界の主要品種別化繊生産

(1) ポリエステルF

前年比16%増の2,294万トと2,000万ト台に乗った。世界の73%を生産する中国が19%増と大幅増を継続した一方、インドは横ばい(0.2%増)。西欧が27%増、米国が産業用・カーペット用の好調で25%増、日本16%増、韓国12%増、台湾9%増、ASEAN4%増と軒並み増加した。

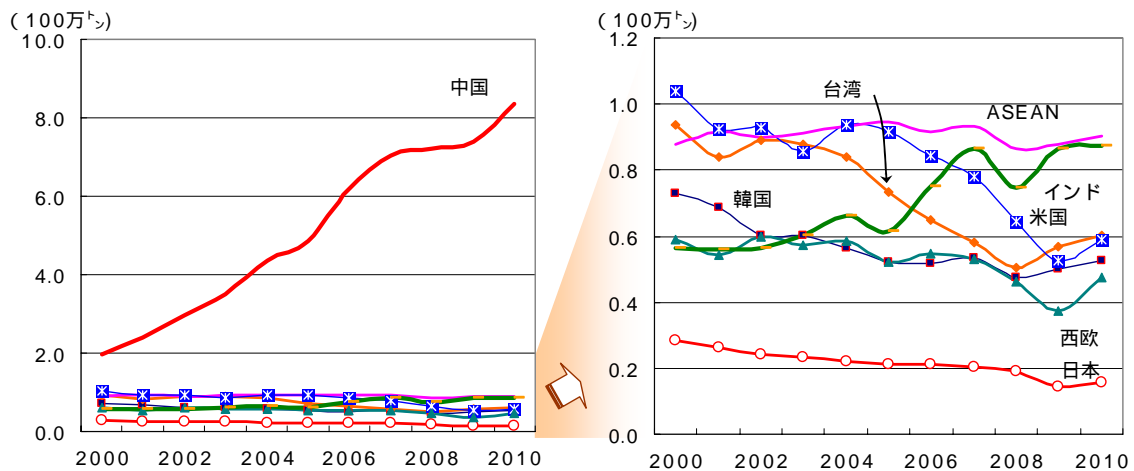
図-5 世界の主要地域別ポリエステルF生産



(2) ポリエステルS

前年比 11% 増の 1,348 万^トと大幅に増加した。中国が 13% 増と 2 年連続の 2 桁増となった一方、インドは 1% 増に留まった。西欧 28% 増、米国 12% 増とそれぞれ 2 桁増で回復したほか、日本 (8% 増)、台湾 (6% 増)、韓国 (5% 増)、ASEAN (3% 増) も増加した。

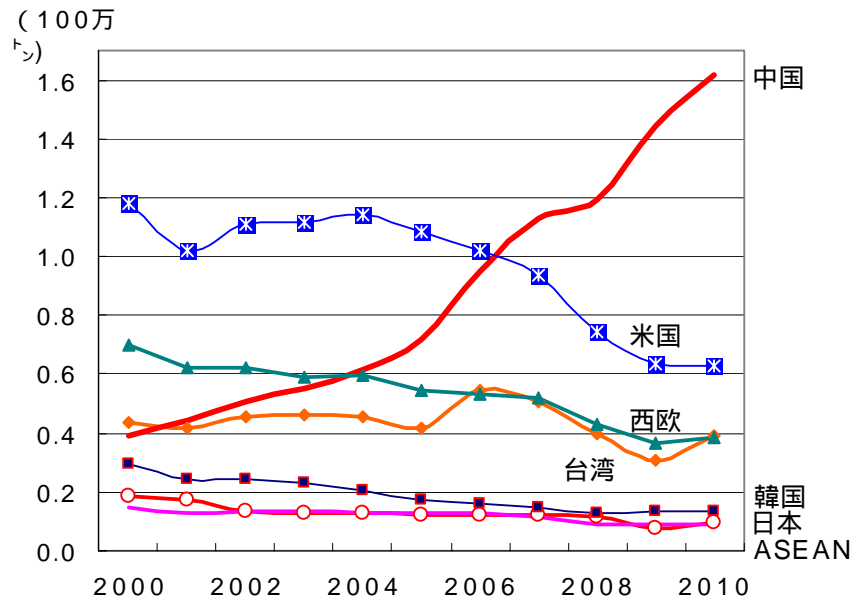
図-6 世界の主要地域別ポリエステルS生産



(3) ナイロン

フィラメントとステーブルを併せて前年比 8% 増の 388 万^トとなった。中国が 12% 増の 162 万^トと大幅に増加したほか、台湾 (25% 増)、日本 (26% 増) も 2 桁増となった。その他、西欧 6% 増、韓国 2% 増と増加したが、ASEAN (1% 増) は横ばい。米国はカーペット用の回復でフィラメントは増加したが、ステーブルが前年比ほぼ半減し、全体では 2% 減と 6 年連続の前年割れとなった。

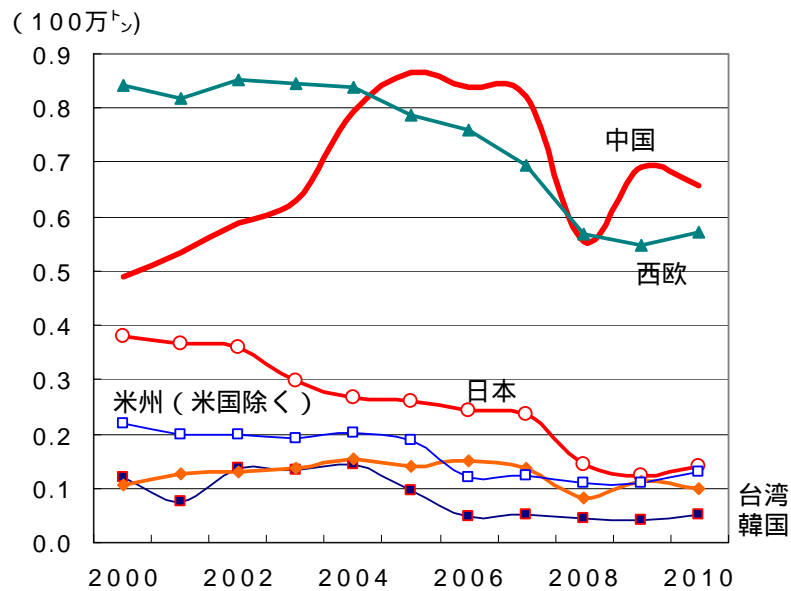
図-7 世界の主要地域別ナイロン生産



(4) アクリルS

前年比 0.6% 増の 198 万トンと横ばいであった。中国が 5% 減となったほか、台湾 (12% 減)、インド (23% 減) も減少した。一方、西欧は 4% 増で 8 年ぶりに増加、日本も 15% 増となった。

図-8 世界の主要地域別アクリルS生産



(注) 日本は 2000 年のみフィラメントを含む

(担当: 業務調査グループ 戸円)